

研究主題

問いを発し、他者との協働を通して自ら学びを深める生徒の育成

～ 個々の学びをつなぎ思考の活性化を促す授業改善を通して ～

1 研究主題設定の理由

本校では、目指す生徒の姿を「『よく生きよ』を自ら問い、目を輝かせて自分の考えを広げ、深め、表現することのできる生徒」「自ら課題を設定し、課題解決に向けて、笑顔で他者と協働しながら新たな考えを創造できる生徒」「満ち足りた表情で、獲得した知識・技能を実社会や実生活、課題解決に生かすことができる生徒」としている。

これまで「思考の活性化」をキーワードに進めてきた授業改善の積み重ねを生かし、「主体的・対話的で深い学び」の実現とカリキュラム・マネジメントの充実とで、全教育活動を通してこの資質・能力の育成に取り組むものとした。

○「問いを発し他者との協働を通して」について

主に「『よく生きよ』を自ら問い、目を輝かせて自分の考えを広げ、深め、表現することのできる生徒」「満ち足りた表情で、獲得した知識・技能を実社会や実生活、課題解決に生かすことができる生徒」との関わりをもって捉えるべき部分である。生徒が自ら問い、対象、他者、自己と対話することで成熟していく三位一体の活動の学びの中で、他者と考えや思いを擦り合わせることで、多くの視点からのものの見方や考え方を得る。問題を解決していくプロセスで生徒同士、あるいは生徒と教師等が対話や議論を行うことで、生徒の思考を広げ深めることにつながる。そして、地域や社会をよくするために何をすべきかを考え、「未来の創り手」となる資質・能力を育むことができると考える。

○「自ら学びを深める」について

「自ら」とは、「主体的な学び」の態度である。課題意識をもって物事を見つめ、そこから探究すべき課題を見いだす。そして、既習事項を生かして解決できないか、その方法を探り、見通しをもって学習を進める生徒の姿を目指す。「学びを深める」とは、既得の知識や技能を活用したり関連付けたりして深い理解につなげることや他者との考えの交流を通して自分の考えを見直したり再構築したりすることを表す。つまり、主に「自ら課題を設定し、課題解決に向けて、笑顔で他者と協働しながら新たな考えを創造できる生徒」との関わりをもって捉えるべき部分である。

これまで、各教科等で、授業の中にグループ学習やペア学習で学び合う場を位置付け、能動的な問題解決の過程を重視し、思考の深まりを図ってきた。今年度はさらに、生徒の意見をコーディネートし、全員が納得するまとめを導く指導や思考の過程が見えるノート作り、学習シートの工夫、そして振り返りの時間の確保によって、生徒が思考の深まりを実感できるようにしていく。

2 研究仮説

生徒の関心・意欲を高める課題設定を工夫し、生徒がその解決に向けて見通しをもって取り組める単元を構想すること、そして、効果的な学び合いを意識して取り入れて授業のコーディネートをすることで、生徒の主体的な学びを促し、思考力・判断力・表現力を高めていくことができるであろう。また、思考が活性化する多様な授業形態や言語活動、振り返りを工夫することで、生徒の学びの実感や達成感を高め、次の主体的な学び、実生活や社会に広がる学びにつなげることができるであろう。

3 目指す生徒の姿

- ・『よく生きよ』を自ら問い、目を輝かせて自分の考えを広げ、深め、表現することのできる生徒
- ・自ら課題を設定し、課題解決に向けて、笑顔で他者と協働しながら新たな考えを創造できる生徒
- ・満ち足りた表情で、獲得した知識・技能を実社会や実生活、課題解決に生かすことができる生徒

4 研究の内容

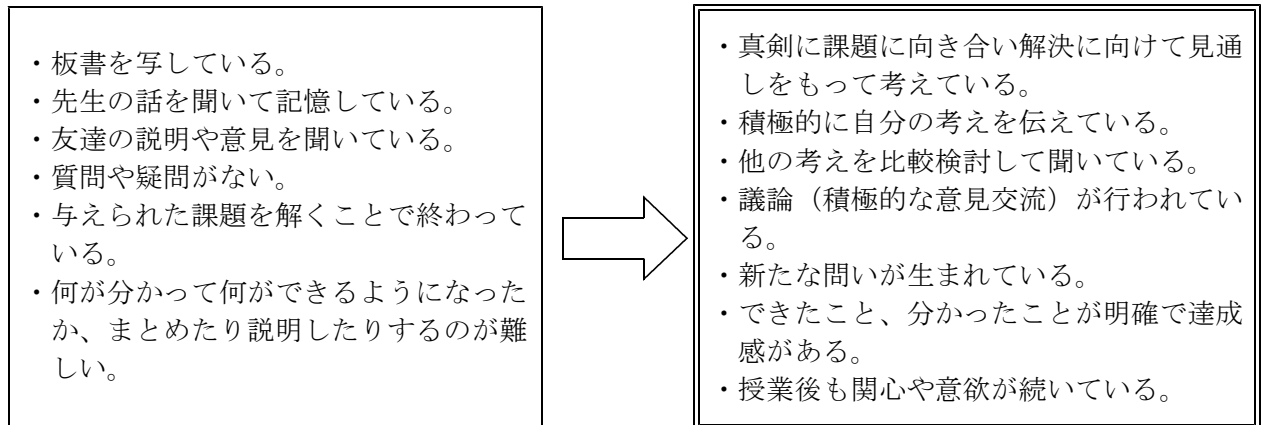
(1) 研究主題に基づいた教科・教科外の研究計画の立案

(2) 研究主題の具現化を図る授業改善

- ① 「思考の活性化」のイメージ及び授業改善の視点を共有する。
- ② 「思考の活性化」を図る授業改善の視点を踏まえて授業に取り組む。

< 「思考の活性化」のイメージ >

受動から → 能動へ



< 「思考の活性化」を図る授業改善の視点 >

- 問題を見だし解決の見通しをもつ活動
 - ・課題発見や解決のためのアイデアを引き出す工夫
- 他者と協働して考えを形成し、自己の考えを広げ深める活動
 - ・授業や単元の中での学び合いの効果的設定とその明確化
 - ・比較・検討に生きる、考えの視覚化
 - ・少人数の話合いと学級全体での話合いを往還させる授業展開や教師の働き掛けの工夫
- 知識や技能を活用したり相互に関連付けたりして深い理解につなげる活動
 - ・既得の知識や技能の活用が図られるような授業展開・単元構成の工夫
 - ・他者との交流を通して、自分の考えを見直したり再構築したりする場面の設定・工夫
- 自身の学びを振り返り変容を自覚する活動
 - ・生徒が自分の学び方や考え方の変容に気付くことができるようにするための手立ての工夫
 - ・学びを既習事項とつなげたり、実生活や実社会に生かしたりしようとさせる手立ての工夫

(3) 成果と課題の把握

- ① 生徒の実態と変容を把握するアンケート等の実施
- ② 授業改善の成果を検討する校内授業研究会等の実施
- ③ 定期テスト及び学習状況調査等による学習内容の定着の把握
- ④ 今年度の研究の重点に基づいた教師一人一人の PDCACA